

いいもりじょうあと くにしせきしてい どうしん  
『飯盛城跡』の国史跡指定が答申されました。

てんかびと みよしながよし きじょう くにしせきしてい  
～天下人・三好長慶の居城、国史跡指定へ～

しじょうなわてし だいとうし へいせい ねんど  
四條畷市と大東市は、平成28年度から  
きょうどう いいもりじょうあと ちょうさ じっし  
共同で「飯盛城跡」の調査を実施してきま  
した。調査の結果、城郭史上の変化点に  
い ち きちょう いせき  
位置づけられる貴重な遺跡であることが  
はんめい  
判明しました。このことから、令和2年度に  
くに たい いいもりじょうあと くにしせきしてい  
国に対して「飯盛城跡」の国史跡指定につ  
いて意見具申を行いました。これを受け  
て、れいわ ねん がつ にち かいさい くに  
令和3年6月18日に開催された国の



いいもりじょうあと えんけい ぼくせい  
飯盛城跡 遠景(北西から)

ぶんかしんぎかい せんごくじだい せいじ ぐんじ し きちょう  
文化審議会において「戦国時代の政治・軍事を知るうえで貴重」であるとして、「飯盛城跡」を国史跡  
に指定するように文部科学大臣に答申されました。今後は官報告示を経て正式に国史跡指定となり  
ます。指定されると両市ともに初めての国史跡となります。

いいもりじょうあと みよしながよし  
飯盛城跡と三好長慶

いいもりじょうあと おおさかふしじょうなわてし だいとうし  
飯盛城跡は、大阪府四條畷市と大東市にまたが  
るひょうこうやく いいもりやま さんちょう きず せんごく  
標高約314mの飯盛山の山頂に築かれた戦国  
じだいまつき やまじろ きほ どうざいやく  
時代末期の山城です。その規模は東西約400m、  
なんぼくやく はか じだい やまじろ にしにほん  
南北約700mを測り、この時代の山城では西日本  
ゆうすう くるわ いしがき ほりきり どのい おお  
有数のもので、曲輪や石垣・堀切・土塁など多くの  
いこう りょうこう じょうたい のこ  
遺構が良好な状態で残っています。



ひしがわ はせい おねじょう くるわ きず いしがき  
東側に派生する尾根上の曲輪に築かれた石垣

いいもりじょう きやうろく ねん きざわながまさ きじょう  
飯盛城は享禄3年(1530)に木沢長政の居城

として初めて文献に登場します。その後、城主は安見宗房を経て、永禄3年(1560)に三好長慶が

あくたがわさんじょう たかつきし きよてん うつ きじょう  
芥川山城(高槻市)から拠点に移して居城とします。そして、当時「天下」と呼ばれた京都と五畿内を

支配する「天下人」となり、城は三好政権の拠点や文化交流の場となりました。永禄7年(1564)に長慶が死去すると、三好義継が跡を継ぎますが、永禄12年(1569)頃に居城を若江城(東大阪市)へ移したことにより、飯盛城は城郭としての機能を失ったと考えられます。

また、三好長慶が飯盛城下でのキリスト教布教を許可し、キリシタンの保護を命じたことで、永禄7年(1564)に城中で二度にわたり家臣73人が洗礼を受けました。

このことを契機に河内でキリスト教が広まりました。その「河内キリシタン」のひとりが、千光寺跡(四條畷市田原台四丁目)から出土したキリシタン墓碑の「田原礼幡」です。

### 調査の成果と評価

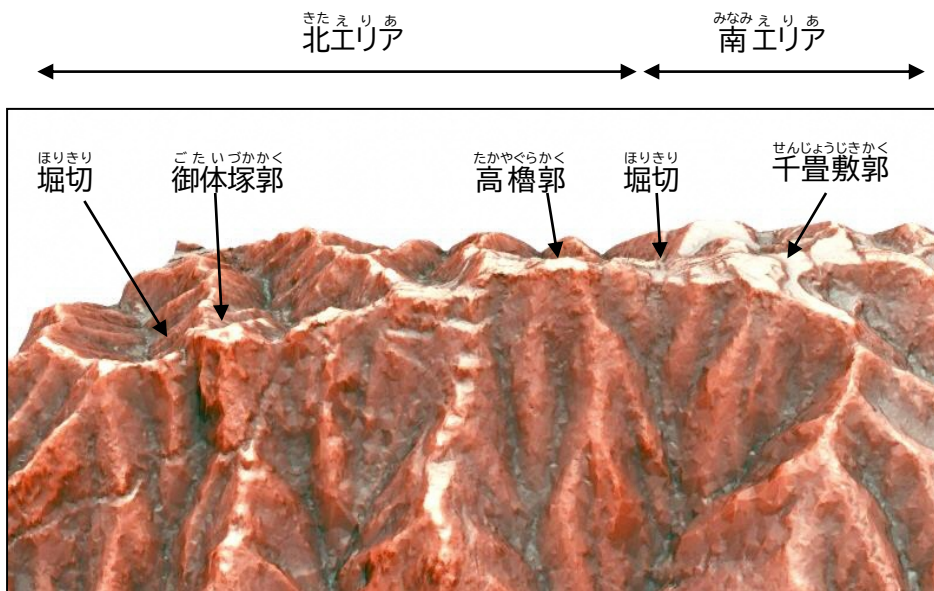
飯盛城は、大きく防御空間である北エリアと居住空間である南エリアに分かれます。

石垣は城のほぼ全域に築かれており、後世の改修や破却の痕跡がないため、その構築時期は永禄12年(1569)以前と考えられます。また発掘調査で、御体塚郭から埴列建物跡を発見し、瓦や鉄釘・灯明皿などが出土、千畳敷郭では曲輪を造成する大規模な盛土を確認し、礎石が出土しました。これらから、「石垣・礎石



埴列建物跡

建物・瓦」の三要素を導入した城郭であったことが判明しました。この三要素が本格的に導入されるのは、織田信長によって完成する「天守」をもつ『織豊系城郭』からとされています。飯盛城は、これに先行してこの三要素を取入れた稀有な城郭として貴重な遺跡です。



飯盛城跡の航空レーザー測量による三次元画像 (西から) 四條畷市教育委員会、大東市所蔵